

「ようこそ！エミリオ神父様」

篠田 文子

エミリオ神父様が帰って来られました。おかげでなさい唐崎教会へ！

思い返せばエミリオ神父様が行かれてから30年近くになります。神父様もみんなも若かった。エミリオ神父様と言えば背が高く大きな笑い声、唐崎教会を明るくして下さいました。

ミサもキリストを囲むということで椅子も丸く囲む形に配置されたり、あるいは左右の人が向き合ったりして、与かった記憶があります。新しい風を吹き込んで下さったのです。

教会の中もゴタゴタしていた部屋をすっきり片付けて下さりおまけにソファまで新品の物をプレゼントしてくださったのです。そのソファは今も司祭室で使わせて頂いております。最後のミサでの神父様の涙は忘れられません。

いろんな楽しかった事、神父様を通して頂いた神様からのお恵みが走馬灯の様に思い出されみんなの目にも涙が滲みました。さあ、帰ってこられた神父様と今から何が起こるか楽しみです。エミリオ神父様よろしくお願い申し上げます。

「四旬節の黙想会に参加して」

田中 静子

エミリオ神父様とは、25年ぶりです。とても楽しみにしていました。以前、唐崎教会に赴任された頃の印象は、長身・明るさ・高笑い・ユーモアがありました。

このたび、大津教会での黙想会は、聖堂の天井が高く、神父様の声が反響して少し聞き取りにくかったのですが、お話は、ルカ15・11〜31、マタイ18・21〜25で、どちらも赦すという聖書の中の難しい箇所でした。

赦すという事は ことごとく内容によっては、自分自身がイライラしている時と平静で充実している時、受け止め方が違います。

神様が先に赦してくださいと思う前に、何か割り切れない気持ちになる事があります。理解するのに随分時間がかかります。

それぞれに個性があり、どの人にも神様が宿っておられます。自分は異なる思いに苦しみ・悩み等の葛藤があります。

そういう時にこそ、信仰・祈りが必要です。祈ることはとても大切なことだと思っています。そして、相手を尊重するよう導かれます。他の人を神様からの贈り物と受け入れることが出来れば、すべてがよるこびに変わり心豊かに過ごせると信じます。



みんなが愛の心でささえ合って生きていくことが出来ますように。 神に感謝 !!

温かい共同体になるために!! 気になったこと、気軽にひと言 声かけいたしましよ。火曜日のミサに与るようになって、何か手伝うことある?とお聞きし、小さなことでも、ひとつ出来た、と、よろこび心とみます。

